

## オーストラリアからの始まり

今、ほとんどの学生は英語の重要性を認識している。しかし、専門分野に追われ英語を勉強できている人は少ないのではないだろうか。(実際、研修に参加するまでは自分もそうだった)しかし、この研修で自分は英語を勉強「しなきゃ」というよりも「したい」という気持ちに変わったのが一番の収穫であった。

ここからは、3週間の奮闘記を書いていく

空港を出てまず誰もが思い言うことは「あつっ!!」と空が青いということだろう。

しかしその暑さと空の青さは、それまでかなりの時間機内にいて、ろくに睡眠もとれなかった自分のテンションを上げさせるものとなった。

そこからバスへ乗りカーティン大学へと行くわけだが、まだ緊張はしていなかった。なぜなら、成田空港で集まっていた時に外国人に何かを(いまだに何のことだったのかわからない)聞かれ、体中から変な汗が出たことが緊張を和らげたのかもしれない。

冗談はさておき、カーティン大学については、各ホストファミリーを待つ時間となった。この時間が研修史上最も緊張した。しかし、ホストファミリーとあって初めに「Nice to meet you」といい握手ができたのならこの研修は良き思い出となるだろう。

自分はお土産と最後の手紙以外はホストファミリーに何かしてあげることはせずすべて甘えた。ソファでふんぞり返ってテレビを見ていたのも、無理に会話を作ろうとしなかったのも今思えばそうやってリラックスできていたのはあのホストファミリーのおかげだ。

しかし、やはりコミュニケーションがとても難しい。自ら何かを投げかけるのは簡単だがそれを返された時の次の投げかけに苦勞する。基本的に、yes,noだけで対処することが圧倒的に多かった。ま



た、オーストラリアなまりがあるとは知っていたが、最初はなまっているのかすらわからなかった。

言っていることはわからなくても喜怒哀楽は声のトーンや表情で分かるのでそこは日本人と同じように対応できる。

次に、オーストラリアの日差しは半端ではない。2日目にホストファミリーと海岸を散歩した。風も強く日差しの割に涼しかったので油断をして日焼け止めを塗らなかった。(ホストファミリーには塗るように言われたが、いなした) そしたら首元が赤くなり、おそらくこの研修に参加した誰よりも先に皮がむけ、シャワーで一人もがいていた。

次は、研修中もっとも大事なことであろうご飯だ。

食べられなくはないが、おそらく日本人の口に合わない家庭がほとんどであると言われておく。

次は、この研修の趣旨である英語研修プログラムについて書く。

自分のクラスは日本人含めサウジアラビア、中国、クエートなど様々な国の人たちと授業を行った(約20人)。例外なく皆フレンドリーであった。特に話しやすいのは中国人だ。お互いの名前を呼び合うだけで盛り上がる。(名前を憶えてくれるだけですごくうれしい) 肝心の授業自体は、正直初めて英語の授業を楽しいと思った。(もちろん声を発せば)

日本の英語の授業は周りが日本人しかいないため英語を話すのが恥ずかしい。そして結局、先生が答えを言っちゃう、というのがだいたいのパターンだった。もちろん自分もそうだった。なのに「8年も英語の授業を受けてきたのに、ろくに話せないよねー」と言っていた自分がアホらしくなった。というのも、この授業では声を発さないと遅れている感じがし恥ずかしくなる。

特にこの授業で得られた課題が2つある。

1つは、同じクラスの外国人に単語の意味を聞かれることが多かった。

それを説明するには、その単語の意味はもちろんだが、類義語を知っている必要がある。

これは、常に英英辞典を使うことが対処法になると思う。

もう1つは、自分の意見を言ったときに「なぜ？」と聞かれることも多かった。

これは常に、自分が思ったことを英語に直して考えることで対処できると思う。

これらは日本ではなかなか体験できない。英語に触れる頻度が圧倒的に少ないことが英語を習得できないもっとも大きな要因である。

基本的に、午前中は授業で午後にはオリエンテーションというパターンが多かった。しかし、もう少し授業の方を多くしてもよかったかなと思う。

しかし、オリエンテーションがやっぱり一番記憶に残るものが多かった。

特に、ロットネスト島でのサイクリングが一番楽しみであり一番楽しかった。

自転車をもっと高性能だったらということなしだった。

海のきれいさには感動して一番はしゃいだ。(足しか入らなかったけど)

水着を持ってこなかった自分にいらだった。

ほかにも、ロットネスト島にしか生息しないクオッカというピカチュウのモデルが人懐



っこくて飼いたくなった。

ただ、かなりの日差しなので、飲み物がないとぶっ倒れるだろう。

また、チョコレート工場に行ったときは必ずかわいい店員さんと写真を撮るためにアイスを買うことをお勧めする。おそらくアイスの値段のほとんどはこれに持っていかれてるはずだ (笑)

休日は、皆パースやフリーマントルへ行くと思う。来てまもなくの頃は、行けるかどうか不安になるが学校のパソコンで調べれば余裕で行けるようになる。

自分は基本的に休日は一人で行動する。

なぜなら、結局飽きてきたところに友達と遭遇するから。

交通初段はバスか電車だ。

電車は日本と変わらない。

しかしバスは、バス停で手を上げないと止まってくれないし場内アナウンスはない。そしてこ



これは日本にもあればいいのと思うのは、降りるときにほとんどの人が「Thank you」と大きな声でいう。

もちろん自分も真似する。

また、昼食でフィッシュ&チップスを食べる場合は、調子に乗って値段の高いのは頼まないほうがいい。もし、頼むとおそらくこうなる。→

最後に、この研修で気づいたことがある。

よく、海外と聞くと必ず文化や価値観という言葉が出てくる。それは、行ったからといって勝手にわかるわけではなく、そもそも英語を理解できないとわからな。当然のことであるが、今まで誰も言ってくれなかった。

また、日本にいれば英語を使えなくても生きていける。しかし、英語ができればどれだけ世界が広がるかを理屈ではなく体で体験できた。

また、一度だけ日本に帰りたと思う時があった。

それはもう一度英語を勉強しなおしてから来たかったからだ。というのも、もっと時間をかけて勉強すれば者になる手ごたえを感じたからだ。

短期留学において重要なのは、そこで英語を習得しようとするよりも、その後日本に帰ってきた時にどれだけ英語を勉強したいと思えるかだ。

それと同じくらい、楽しまないともったいない。

